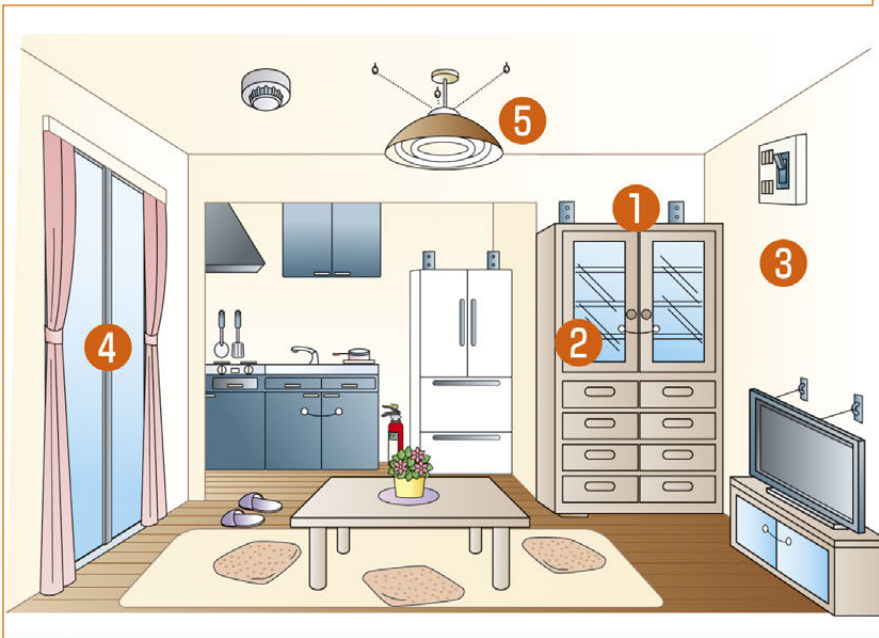


わが家を守ろう

地震で家具が転倒すると、出入口がふさがれたり、室内に物が散乱して避難の妨げになるだけでなく、けがをしたり、下敷きになって命を落とすこともあります。

阪神・淡路大震災で亡くなった方のうち、約9割が家屋の倒壊や家具の転倒などによる圧迫死でした。また、家が倒壊しなくても、強い揺れによる落下物やガラスの破片などによってけがをすることもあります。

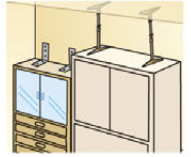
地震から身を守るには、家具の固定や配置を工夫し、家の中を安全にしておくことが重要です。被害を軽減するためにも日頃から点検し、安全対策をしましょう。



● 室内を確認しましょう

① 家具

金具やつっぱり棒など家具転倒防止器具を取りつける。



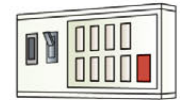
② 扉・戸棚

扉が開いて食器等が飛び出さないよう、留め金具を取り付ける。



③ ブレーカー

停電が復旧する際の電気火災を防ぐため、感震ブレーカーを設置する。



④ 窓ガラス

ガラスに飛散防止フィルムを貼る。



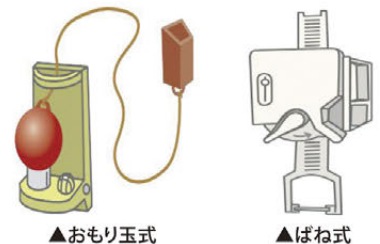
⑤ 落下防止ワイヤー

吊り下げている照明器具は、ワイヤーなどで固定します。

火災対策

感震ブレーカーを設置しましょう

過去の大震災における火災原因の6割以上（原因不明分を除く）が電気に関係するものとされています。「電気火災」の防止には、一定以上の揺れを感知すると自動で電気を遮断する「感震ブレーカー」の設置が効果的です。



▲おもり玉式

▲ばね式

火災が発生してしまったら

初期消火は出火後 2～3 分が大事です。これ以上火災が続くと、火が天井にまわり手がつけられなくなります。ただし、大きな揺れの最中に無理に火を消そうとすると危険です。まずは身の安全を図りましょう。

炎が天井まで届くくらいになった ⇒ 初期消火をやめ、すばやく避難

家の外に避難したら ⇒ 周囲に火災の発生を知らせ、119 番通報を

火災の規模が大きい場合 ⇒ 広域避難場所等へ避難